2016 年度

開智国際大学「公開講座」報告

2017 年 2 月

開智国際大学

研究・図書・紀要委員会

地域貢献センター

目次

はじめに　……佐々木さよ　5

(1)〈光・闇〉:「沖縄の昔話と魔除けとまじない」……又吉　弘那　7

(2) インド社会の光と陰 ……古賀 万由里　11

(3) モーツァルト『魔笛』の投げかける光と闇　……飯森 豊水　15

(4) 和歌に詠まれた「光と闇」
古今集歌「久方の光のどけき春の日に～（84 番）」と
「春の夜の闇はあやなし梅の花～（41 番）」を中心として ……服部 一枝　25

(5) テロ以後のフランス：その闇と光　……原田　操　33

(6) 生と死の狭間に如何に生きるか ～陶淵明の光と闇～……三枝 秀子　37

(7) シェイクスピアのファースト・フォリオ版全集の魅力 ……安田 比呂志　41

(8) オーストラリアを知ろう！ ……Bruce Flanagan　45

(9) 車椅子特殊操作とスポーツ体験
―傷害を持つ人との共生目指す ―　……小山　貴　49

(10) 小中学校音楽教員のための効果的な吹奏楽指導法
～初等教育教育法（音楽）におけるアクティブラーニング型
授業と講義反復練習型授業の教育方法を通して～　……石田　修一　55

(11) 若さと健康をサポートします！―ミニテニス―　……高橋　早苗　59

＜参考資料＞「2016 年度公開講座案内」（表紙のみ）……　65

はじめに

大学は、教育と研究という両輪もって社会に対する使命を担っています。この使命を多彩な広がりをもって果たしていくことが必要です。いわゆる実学と言われる研究分野を中心にした地域振興や産学連携などはこの広がりの一つでしょう。また、研究分野の多様さやそれらの連携によって新たなる知の枠組みが生まれていることを社会に広く知っていただくということもあります。

本学では、公開講座によって地域の皆様に生涯学習として「知」を広く楽しんでいただきながら各研究分野の研究成果を地域社会に開いていきたいと考えてきました。研究分野の多様性を楽しんでいただきながら各講座が緩く接続しているような形を理想として、統一テーマを設けてきました。２０１６年度は「光と闇」という共通テーマを中心にして講座を開きました。また、昨年に引き続いて柏市教育委員会からご後援をいただきました。

本学は２０１７年度より教育学部と国際教養学部の２学部となります。新時代を切り拓く人材育成において、本学が担う使命の重要度は一層高くなりました。地域の皆様に対しては、生涯教育において大学公開講座が大きな一部であることをさらに意識していきたいと考えています。本学が地域に根付き、地域の皆様とつながり、「知」が豊かに広がっていくことを願ってやみません。

なお、今年度の講座の一部ではありますが概要を掲載いたしました。ご参考にしていただければありがたく存じます。

2017 年 2 月 28 日

研究・図書・紀要委員長
佐々木 さよ

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（1）

講座名	〈光・闇〉:「沖縄の昔話と魔除けとまじない」		
講師	又吉　弘那	所属	総合文化学科　准教授

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 9 月 26 日（月） 10：40～12：10	9 月 26 日　（沖縄県産品 Pokka さんぴん茶とお菓子） はじめに～現代に受け継がれる琉球伝統文化神秘、魔除けとまじない： a.　東京でも沖縄文化に触れられる、「銀座わしたショップ」 b.　沖縄の天国―ニライカナイとシルクロード c.　守り神：石敢當、ヒンプン（沖縄家屋）、フーフダ、 スイジガイとシーサー 沖縄昔ばなし： c.「太陽と月と神様」解説 d.「人魚と大津波」解説
2016 年 10 月 3 日（月） 10：40～12：10	10 月 3 日　（沖縄県産株式会社比嘉製茶（緑茶：やんばる TEA　ティーとお菓子） はじめに～沖縄文化の風習と魔除け： a. サン、ゲーン、月桃の葉とお餅、琉球御嶽信仰（先祖崇拝とお寺） b. 紅型紹介、着付けと写真会 沖縄昔ばなし： c.「鬼餅の由来」解説 d.「耳切り坊主」と恐怖の子守歌解説

日時	講座内容
2016 年 10 月 17 日（月） 10：40〜12：10	10 月 17 日　（沖縄県産株式会社比嘉製茶　（ハイビスカス茶：ハイビスカスティーとお菓子） はじめに〜魔除けとお守り： a.　ヒジャイナ―、髪の毛、ニンニク、塩、刃物とキジムナー b.　沖縄伝統工芸：琉球紅型、琉球絣、琉球芭蕉布と文様の意味を解説 c.　からじ結いと意味を解説 d.　沖縄県立博物館でのボランティアを通して、言語と文化推進と継承を解説 沖縄昔ばなし： a.　「天女のむすこ」解説 b.　「十二支の由来」解説 c.　「クスケ―の由来」解説 d.　「星砂の由来」解説 e.　「キジムナーの仕返し」解説 f.　「普天間権現の由来」解説

＜講師報告＞

テレビとかインターネットのない時代に、沖縄昔話は、親の教えが詰まっていた物語として、子供たちに口承で伝えていた。子供たちは、物語を通して、人情、闇という疑念の心と光である人を敬う心を育み、大人となり次の世代に継承し、希望を託していた。沖縄昔話は、あらゆる問題に直面しながらも話が変わるごとに、先祖の教え（情報）が家族と人々を邪念から守ることをも教える教材でもありました。沖縄のお菓子とお茶とともに、沖縄昔話を解説いたしました。

参考文献：

赤嶺政信　（2014）	「歴史のなかの久高島　ー家・門中と祭祀世界」　慶友社
石川きよ子　（1991）	「沖縄昔ばなしの世界」　有限会社沖縄文化社
遠藤 庄治と安室二三雄　（2000）	「21 世紀に残したい 沖縄の民話 21 話」琉球新報社
むぎ社編　（2007）	「沖縄その不思議な世界　今すぐ役立つ沖縄のしきたりと最新情報　ひと目でわかる！　沖縄の葬式と法事と位牌　スーコーとトートーメー」
酒井卯作　（2001）	「琉球列島における死霊祭祀の構造」第一書房
座間味栄義　（2006）	「家と家族を守るムンヌキムン-沖縄の魔よけとまじない」　むぎ社
垂見健吾　（1992）	「沖縄いろいろ辞典　ナイチャーズ編」　とんぼの本　新潮社
波平エリ子　（2010）	「トートーメーの民俗学講座　ー　沖縄の門中と位牌祭祀」　ボーダーインク社
比嘉政夫　（2010）	「沖縄の親族・信仰・祭祀　社会人類学の視座から」榕樹書林
吉成直樹監修（2013）	「神秘とロマンに彩られた魅惑の世界　琉球王国がわかる！」　成美堂出版
渡邊欣雄、岡野宣勝、佐藤壮広、塩月亮子、宮下克也　（2008）	「沖縄民俗辞典」吉川弘文館

過去の公開講座
１　日本橋学館大学にて、「２０１４年公開講座」今年の公開講座テーマは、生誕４５０年の「シェクスピア」と、同じ時期に日本文化が花開いた「江戸」。の中の「比較文化地域言語：沖縄語入門」講師：又吉弘那准教授　開催者：開智国際大学公開講座係、場所：開智国際大学、開催都道府県：千葉県柏市、（公開講座を担当。開智国際大学公開講座 （全5回　月曜日）２０１４年9月１５日、9月２２日、9月２９日、１０月６日、１０月１３日 テーマは、生誕４５０年の「シェクスピア」、江戸時代の沖縄文化と歴史の解説。琉球女流琉歌人の恩納ナビと吉屋ツルの波乱万丈の人生を紹介、琉歌を解説、ゲームを通して沖縄語と基礎的な沖縄会話、ディープな映画と沖縄の怖い話を解説いたしました。
２　「比較文化地域言語：基礎沖縄語」、講師：又吉弘那准教授　開催者：開智国際大学公開講座係、場所：開智国際大学、開催都道府県：千葉県柏市、（全 5 回　金曜日）2015 年 9 月 25 日、10 月 2 日、10 月 9 日、10 月 16 日と 10 月 30 日） テーマは、「グローバル教養」と沖縄文化と歴史、琉歌、民謡を解説、沖縄史に名を刻んだ女性たちがどのように恋と仕事の困難を乗り越え、強く、儚く生きたか。また琉球王宮の女性たち（大奥に渦巻く黒い陰謀）や女優仲田幸子さんの泣き笑い郷土劇場の解説について、講座を致しました。

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（2）

講座名	インド社会の光と陰		
講師	古賀 万由里	所属	総合文化学科　講師

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 10 月 17 日（月） 10:40～12:10	1990 年代の経済自由化以降、インドは IT 産 業を中心に急速に経済成長してきました。一 方で、富裕層・中間層と貧困層、男女、地域 の格差が大きいことが問題となっています。 格差の文化的背景にある、カースト、宗教観、 ジェンダー、教育についてみていきます。

＜当日受講風景＞

＜講師報告＞

インドは1947年の独立以降、主な産業は国公営企業が独占し、民間や外資系企業は統制されていたが、1991年の経済自由化以降、著しい経済成長を遂げた。その背景には、約13億の人口の6割近くが30歳以下という理想的な人口構成と、新たな階層である「中間層」の台頭と彼らの消費力の拡大がある。また、理数教育重視の政策や英語が準公用語であることが、強みとしてあった。

しかし一方で、電力、水道、鉄道、道路、医療などのインフラの供給不足や、都市部と農村部との格差、州間の格差や男女間の格差が著しいといった傾向がみられる。インドの経済発展の阻害要因として、カーストが挙げられる場合がある。また、IT 産業はカーストによる職業差別がないから成長したという語り口もある。

本講座では、カースト、ヒンドゥー教、ジェンダーという伝統的な慣習が現代社会にいかに影響を及ぼしているのかを中心に話した。

インドの伝統的習慣（カースト、男女差）は、差別的環境を生みだし、平等思想からは非難される。だが、ヒンドゥー教徒にとって、格差は生まれながらにして当たり前である（運命論、業）と考えられるため、外側の人ほど問題視されていない。各々の立場によって、社会的義務が定まっており、それを全うすることが輪廻から解脱への道につながるという考えは、各々の道を明確にする。また結婚が宗教的義務であることは、高い結婚率、出産率につながっているといえる。

結論として、カースト、宗教、ジェンダーといった伝統的文化や慣習が、経済発展や社会的地位向上を阻害している側面はあるが、必ずしも社会の陰の原因が、伝統文化にあるわけではない。現代の中で伝統文化は新たな役割や解釈を与えられ、変容しながら現代社会の発展に関与しているといえる。

受講生の中には、渡印したことがある人や、インドの宗教や習慣に関心を持っている人が多くいて、講義後に数多くの質問が寄せられた。

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（3）

講座名	モーツァルト『魔笛』の投げかける光と闇		
講師	飯森 豊水	所属	人間心理学科　教授

＜実施概要＞

日時	実施概要
① 2016 年 10 月 31 日（月） 13：00～14：30	音楽における「光と闇」。イントロダクションとして、啓蒙主義の時代においては、「光」と「闇」が現代では想像できないほど厳しく対立していたことを確認した。また、そうした観点からモーツァルトとベートーヴェンの作品を鑑賞した。
② 2016 年 11 月 7 日（月） 13：00～14：30	始めに『魔笛』の成立や構成などの概説を行った。さらに「光」、「闇」および「自然」の 3 層で登場人物を分類し、作品における描き分けを確認した。
③ 2016 年 11 月 13 日（月） 13：00～14：30	当時の人たちは『魔笛』をどう見たのか？第 3 回では、当時の資料からは、この作品がむしろ大衆向けエンターテインメントとして上演され、受け入れられていたことを説明し、そうした視点で鑑賞した。
④ 2016 年 11 月 20 日（月） 13：00～14：30	『魔笛』と、この作品から霊感を受けたR.シュトラウスの『影のない女』を比較した。いずれの作品も「光と闇（影）」を象徴的に対比していて、登場人物は「3 つの層」に分類でき、テーマが「試練を経て成長し、真の愛を獲得すること」という点で共通していることを確認した。
⑤ 2016 年 11 月 27 日（月） 13：00～14：30	『影のない女』の最終場面を鑑賞した。さらに『魔笛』の「闇と光」の対比を強調した演出で最終場面を鑑賞し、両者の共通点について考えた。

＜講師報告＞

モーツァルトの『魔笛』は「光」と「闇」の相克の物語です。最後の場面で、「光」が「闇」に打ち勝ってハッピーエンドとなります。

しかしこの作品は、今日では、いやそれどころか、初演当時から一貫して、「光」と「闇」の対比そのものが中心的なテーマとして十分に理解されることはなかったのではないでしょうか。勧善懲悪や王子の成長物語を基調としながら、パパゲーノの歌う陽気で親しみやすい旋律、彼の人間味あふれる失恋への不安、そして劇的に演出されたパパゲーナとの再開など、幕開けから大団円に至るまで、エンターテインメントの要素に満ちています。ドイツ語圏で、子供たちの入門用オペラとされるゆえんです。

従って、実のところ、本講座のタイトルで掲げたように『魔笛』を「光」と「闇」の対比の物語として鑑賞しようとするのは意外に難しいのです。しかし、敢えてこの作品を「光」対「闇」の文脈で把握しなおすとどのような景色が見えてくるのだろうか、と挑戦したのが今回の公開講座でした。

実は 3 年前にも本学の公開講座でこの『魔笛』を扱っていたのですが、今回の受講生の半数以上の方々がこの講座を受講されていたということでした。それで同じ内容の重複を避けるうちに、全 5 回を終えてみれば、当初予定していた以上にマニアックな内容になっていたような気がします。

各回の内容は上記の「実施概要」の通りですが、全体を通して講座の成否を握るポイントと考えたのは、現代と 18 世紀後半における「光」と「闇」の認識の違いをどのように理解するかということでした。

現代でも「心の闇」を語ることはしばしばありますが、「光と闇」の対比という文脈で扱われることはあまりないようです。おそらく啓蒙主義の時代といわれる 18 世紀後半の人々にとって、因習的な「闇」は私たちが想像するよりも深くて暗く、それだけに「光」を渇望し、あたかもその「光」が眼前にあるかのように信じたかったのではないでしょうか。視点を変えれば、この時代にはものの考え方や社会の変化が次第に方向性を持ってきて、そうした希望を現実のものとして抱けるようになり、そのことに興奮する人々を生み出していたのかも知れません。『魔笛』にはまさにそうした新しい感性が息づいています。もしこうした意識の変化を見逃してしまうと『魔笛』は単なるエンターテインメントになってしまうのではないでしょうか。

講座においてこの問題を扱うためには相当な時間を必要とするはずですが、今回の講座では第 1 回目で終えてしまいました。なかなか難しい話題だけに、実は、どのように話をしていいかと思案していました。そこで偶然、講座の当日の新聞記事に、村上春樹氏のアンデルセン文学賞授賞式でのスピーチを見つけました。村上氏はここで現代人あるいは現代社会が「影」を正面から捕らえ、これと共生するこ

とが大切であると説いていました。講座では、このスピーチから出発して、人間が元来持っている「影」や「闇」に対する意識を、切実に感じようとしたつもりです。受講生の方々にはどう映ったでしょうか。

第 2 回目と第 3 回目は、『魔笛』をすでに知っている方のための「再入門」的な内容になったと思います。

第 4 回目にR. シュトラウスの『影のない女』を紹介し、第 5 回で一部を鑑賞しました。『魔笛』の中の「光と闇」を経験したばかりの受講生の方々には、予想以上にこの作品にも関心を持っていただけたような気がします。『魔笛』と『影のない女』を比較すると、表面的な類似性もあるのですが、それをこえて、どこか深いところで共通した思いが込められているように感じられます。そしてこの共通した思いを通して、啓蒙主義の時代に生まれた『魔笛』の中に潜む「闇」への恐怖、「光」への渇望を、『影のない女』を生んだ現代に生きる受講生の方々に、実感していただけたかも知れません。もしそうであるなら、講師として最上の喜びであると感じつつ、講座を終えました。

＜配布資料等＞

公開講座

モーツァルト『魔笛』の
投げかける光と闇
（全5回）

講師：飯森豊水 （人間心理学科）

村上春樹　アンデルセン文学賞
受賞スピーチ要旨 (1) (毎日新聞2016年10月31日)

ハンス・クリスチャン・アンデルセン文学賞授賞式で行われた作家、村上春樹さんのスピーチ要旨は次の通り。

一、アンデルセンの「影」は興味深かった。童話作家が暗く望みのないファンタジーを書いていたとは思いもしなかった。主人公が影に乗っ取られ、殺されてしまう話だ。

一、小説を書くことは発見の旅だ。アンデルセンも何かを「発見」するために書いた。自分探しの痕跡が見える。

村上春樹　アンデルセン文学賞 受賞スピーチ要旨 (2) (毎日新聞2016年10月31日)

一、小説を書く際、予期していなかった自分と直面する。自分の影を率直に描き、自分の一部として受け入れる感覚を読者と共有することが小説家の重要な役割だ。

一、影に向き合い、時には共に働かなければならない。もしそれを避ければ成熟できない。「影」のように自分の影に破壊されることになる。

一、全ての社会と国家にも影があり、向き合わなければならない。われわれは影から目を背けがちで、排除しようとさえする。影を生まない光は本当の光ではない。

村上春樹　アンデルセン文学賞 受賞スピーチ要旨 (3) (毎日新聞2016年10月31日)

一、侵入者を防ぐためにどれだけ高い壁を築き、厳しく部外者を排除し、自分たちに都合よく歴史を書き換えても、結局は自分を傷つけるだけだ。

一、影との共生を学ばなければならない。暗い側面と向き合わなければならない。向き合わなければいつか影はもっと強大になって戻ってくるだろう。

一、傑出した物語は多くのことを教えてくれる。教訓は時間や文化を超越する。(共同)

ベートーヴェンと貴族社会

- 一方で、ウィーンの貴族社会はベートーヴェンの才能を評価した。
- 貴族たちは、競って作曲家たちにコンテストのようなことをさせた。即興的に与えられた主題によって演奏させた。
- ベートーヴェンはボンの訛りが強かったが、才能を発揮した。
- 次第に、ベートーヴェンを庇護（経済的に援助）したり、音楽活動を支援する貴族が現れる。

難聴

- 1796-7年頃から難聴が始まる。
- 最晩年には聴覚を完全に失った。
- この間、作曲活動そのものには直接的な問題はなかった。
- しかし、オーケストラと共演するときなどに、支障が現れた。
- また、人々と自由に会話できなくなったのも非常に苦痛だった。（「作曲家なのに耳が聞こえない」。）

ベートーヴェンの補聴器

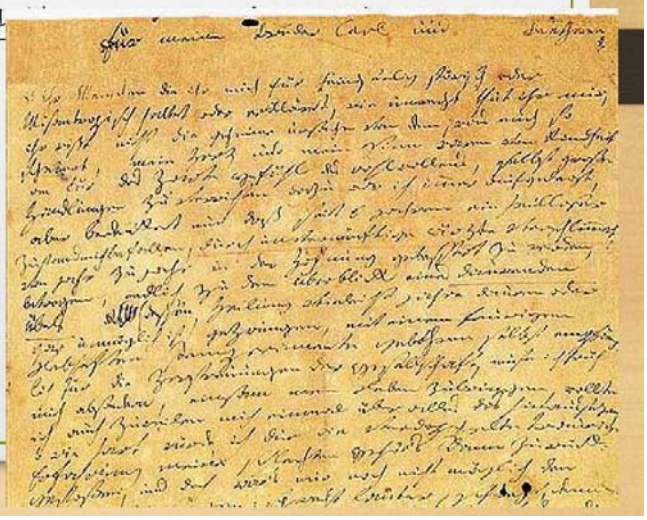
ハイリゲンシュタットの遺書

- 1802年10月6日にウィーン郊外のハイリゲンシュタットで、甥のカールと
遺書（手紙）。
- 内容は、耳の

病気の辛さと、

芸術に生きる

決意の表明。



ハイリゲンシュタットの遺書

- 引用…
- *人に交わろうとすればすぐに、自分の状態に気づかれるのではないかという恐れに苛まれてしまうのだ。*
- *…ともすれば人恋しさに胸がはち切れそうで誘惑に負けたこともあった。だが、隣にたっている人に遠くの笛の音が聞こえるのに、私には聞こえず、だれかが羊飼いが歌うのを聞いても、私にはやはり何も聞こえないとは、なんという屈辱だろう。*

ハイリゲンシュタットの遺書

- *そんなことがあるたびに、私は絶望へと追いやられた。もう少しそういうことがあったら、私は命を絶っていただろう――*
- *ただ芸術だけが、それだけが私を思いとどまらせたのだ。ああ、自分に課せられていると感じられるものすべてを成し遂げるまではこの世を去ることはとても出来るとは思えなかった。*

苦難を克服して「中期」へ

- この「ハイリゲンシュタットの遺書」にある耳の病気による苦難を克服してからは、
- 「遺書」の中にあるドラマのように、英雄的な内容の作品を次々と発表していく。→「英雄様式」
- ここから「中期」に入る。

「中期」の作品

- 交響曲第2番、第3番《英雄》、第4番、第5番《運命》、第6番《田園》
- ピアノ協奏曲第3、4番、第5番《皇帝》、ヴァイオリン協奏曲
- 弦楽四重奏曲第7-9番《ラズモフスキー》、第10番《ハープ》、第11番《セリオーソ》
- ピアノ・ソナタ第16-18、21-23番、ヴァイオリン・ソナタ《クロイツェル》
- 歌劇《フィデリオ》
- …といった彼の「代表作」が並ぶ。

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（4）

講座名	和歌に詠まれた「光と闇」 古今集歌「久方の光のどけき春の日に～（84 番）」と「春の夜の闇はあやなし梅の花～（41 番）」を中心として」		
講師	服部 一枝	所属	総合文化学科　教授

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 11 月 22 日（火） 13：00～14：30	春の歌と言えば、多くは昼の日差しを素材とする中で。躬恒は「春の夜の風情に注目して「春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる」と闇夜の梅香をたたえ、独特のイメージを作り上げました。この歌の後世への影響を考えていきたいと思います。

＜講師報告＞

今年度の公開講座のテーマは「光と闇」であった。和歌の世界でそれを語ることができないか考えてみた。即座に浮かんだ和歌が、

・久方の光のどけき春の日の静心なく花の散るらむ（古今集・春歌下・84・紀友則）と

・春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる（同・春歌上・41・凡河内躬恒）

という二首であった。

春の歌と言えば、多くは昼の日差しを素材とするものが多い。

・春の日の光にあたる我なれどかしらの雪となるぞわびしき（(古今集・春歌上・8・文屋康秀）の歌の「春の日」はまさに春の日差しを詠んだものである。また、春日は、春になり日照時間が長くなったことに注目する語として次のようにも詠まれている。

・逢はずしてこよひ明けなば春の日の長くや人をつらしと思はむ（古今集・恋歌三・624・源宗于）

ところが、躬恒は「春の日」ではなく、「春の夜」の風情に注目して「春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる」と、闇夜の梅香をたたえた歌を詠んでいる。春は冬より日が長く、逆に夜は短くなる。その「春の夜」と「梅」を組み合わせて独自のイメージを作り上げたのである。この歌はどのような経緯で作られ、どのように後世へ影響を与えていったのであろうか。それを受講生の皆様とご一緒に考えていくことにした。

講座は、

一、『古今集』春歌に詠まれている「光」

二、「春の日」と「梅の花」を詠んだ歌　　『万葉集』と「梅の花」

三、『古今集』と「梅の花」　「暗香浮動」を詠んだ歌三首

四、「春の夜の闇」と「梅」　　後世への影響

五、「春の夜」と「夢」

六、「春の夜」と「月」と「梅」

七、貫之と躬恒の関係

と、万葉集、八代集、貫之集の歌を検討することによって、歌人躬恒の功績を新たなものにしていった。(配付資料参照)

「暗香浮動」を詠んだ歌三首は、次のように配列されている。

・梅の花にほふ春べはくらぶ山闇にこゆれどしるくぞありける（貫之）

・月夜にはそれとも見えず梅の花香を尋ねてぞ知るべかりける（躬恒）

・春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる（躬恒）

いずれも梅の香りが闇の中を漂うことを詠んだ歌である。どちらが先にこの発想を思いついたのであろうか。古今集撰者として同じ時代を生きてきた２人が、常にお互いを意識しながら切磋琢磨してそれぞれの歌風を確立させていったであろう様子について、受講生の皆さまと意見交換をすることもできた。

〈 配付資料 〉

平成二十八年度　公開講座　　特集テーマ「光と闇」

開智国際大学　服部一枝

【講座名】　和歌に詠まれた「光と闇」

古今集歌「久方の光のどけき春の日に～（84番）」と「春の夜の闇はあやなし梅の花～（41番）」を中心として

【内容】春の歌と言えば、多くは昼の日差しを素材とする中で、躬恒は「春の夜」の風情に注目して「春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる」と闇夜の梅香をたたえ、独特のイメージを作り上げました。この歌の後世への影響を考えていきたいと思います。

一、「古今集」春歌に詠まれている「光」8番・84番

二条の后の春宮の御息所ときこえける時、正月三日お前に召して、おほせごとあるあひだに、日は照りながら雪の頭に降りかかりけるをよませ給ひける

（1）春の日の光にあたる我なれどかしらの雪となるぞわびしき（古今集・春歌上・8・文屋康秀）

【訳】　二条の后（藤原貴子）がまだ「東宮の御息所」と申し上げられていたころ、正月三日御前に召してお言葉のあったうちに、日が照っているのに康秀の頭に雪が降りかかってきた。その光景を后がお詠ませになった歌

・春の陽光を浴び、そして春の宮様である皇太子様（後の陽成天皇）のお恵みをこうむっている私でありますが、このように頭に雪が降りかかり、そして髪も年と共に白くなりました。それだけが情けないことであります。

＊この歌の「春の日」＝春の日差し

桜の花の散るを詠める（桜の花の散るのを詠んだ歌）

（2）久方の光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ（古今集・春歌下・84・紀友則）

【訳】日の光がのどかに照っている春なのに、その春に背いて散る花は、あわただしい、切ない思いで散っているのだろう。

＊この歌の「春の日」＝春の日差しを受ける春の一日。

〈参考歌〉　桜の花の散りけるをよみける

（3）ことならば咲かずやはあらぬ桜花見る我さへに静心なし（古今集・春歌下・82・紀貫之）

（見ている私までも落ち着いた心をなくさせるものだ）

渚院にて桜を見てよめる

（4）世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし（古今集・春歌上・53・在原業平）

（もしもこの世に桜というものが全くないと仮定したら、人々の春の心は本当にのどかでいられるのだが）

＊いずれにしても春日は、春になり日照時間が長くなったことに注目する語である。

【例歌】（5）逢はずしてこよひ明けなば春の日の長くや人をつらしと思はむ（古今集・恋歌三・624・源宗于）

（せっかく来たのに今夜もお逢いすることができず、むなしく夜が明けてしまうならば、この春の日の長いように、あなたのことを長い間つれない人だと思うことでしょうよ）

二、「春の日」と「梅の花」を詠んだ歌

（6）春さればまづ咲くやどの梅の花ひとり見つつや春日暮らさむ（万葉集・巻五・818・山上憶良）

（春になると、まず咲く家の、梅の花を、ひとり見ながら春の日を暮らすことか）

『万葉集』と「梅の花」

（7）梅の花今盛りなり思ふどちかざしにしてな今盛りなり（820）・・梅の花を髪に挿して遊ぶ

（8）我が園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも（822）・・梅の花を雪と見る趣向

（9）梅の花散らまく惜しみ我が園の竹の林にうぐひす鳴くも（824）・・散るのを惜しんで鶯が鳴く

＊梅の香りを詠んだ歌は一首しか見あたらない。

三、『古今集』と「梅の花」・・・香りを強調。　梅の香が人に移ったと詠まれた歌が多い。

（10）折りつれば袖こそにほへ梅の花ありとやここに鶯の鳴く（32・読人しらず）

（11）色よりも香こそあはれとおもほゆれ誰が袖ふれし屋戸の梅ぞも（33・読人しらず）

（12）屋戸ちかく梅の花うゑじあぢきなく待つ人の香にあやまたれけり（34・読人しらず）

（13）梅の花立ちよるばかりありしより人のとがむる香にぞしみぬる（35・読人しらず）

（14）鶯の笠にぬふといふ梅の花折りてかざさむ老いかくるやと（36・源常）

（15）よそにのみあはれとぞ見し梅の花あかぬ色香は折りてなりけり（37・素性法師）・・色と香り

（16）君ならで誰にか見せむ梅の花色をも香をも知る人ぞ知る（38・紀友則）・・色と香り

「暗香浮動」（梅の香りが闇の中を漂うこと）を詠んだ歌三首

（17）梅の花にほふ春べはくらぶ山闇にこゆれどしるくぞありける（39・紀貫之）

（くらぶ山から「暗い」を連想）

（18）月夜にはそれとも見えず梅の花香を尋ねてぞ知るべかりける（40・凡河内躬恒）

（19）春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる（41・凡河内躬恒）

（20）ひとはいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほひける（42・紀貫之）

（21）春ごとに流るる川を花と見て折られぬ水に袖やぬれなむ（43・伊勢）

（22）年をへて花の鏡となる水はちりかかるをやくもるといふらむ（44・伊勢）

（23）暮ると明くと目かれぬものを梅の花いつの人まに移ろひぬらむ（45・紀貫之）

（24）梅が香を袖に移してとどめてば春は過ぐともかたみならまし（46・読人しらず）

（25）散ると見てあるべきものを梅の花うたて匂ひの袖にとまれる（47・素性法師）

（26）散りぬとも香をだにのこせ梅の花恋ひしきときの思ひいでにせむ（48・読人しらず）

四、「春の夜の闇」と「梅」

春は冬より日が長く、逆に夜は短くなる。その「春の夜」を梅と組み合わせて独自のイメージを作り上げた歌人が躬恒である。

・春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる（古今集・41・凡河内躬恒）

（春の夜の闇は理屈に合わずわけがわからないよ。暗闇に咲く梅の花はたしかにその色は全く見えないが、香りは隠しようもないではないか。だからそのありかはすぐわかるよ）

後世への影響

「春の夜の闇」について

【変遷】「梅の香りが闇の中を漂う」→「梅の香そのものを賞賛する」→「心をうわの空にするもの」

春の夜の闇はあやなし、ということをよみ侍りける

(27) 春の夜の闇にしあればにほひくる梅よりほかの花なかりけり（後拾遺集・52・藤原公任）

（春の夜の闇夜だからこそ、匂ってくるのは梅の花のみで、それ以外の花は何もないことだなあ）

＊躬恒の歌を下敷きにして、梅香のみが匂ってくることを強調。

古今集の一部が歌会における歌題として用いられた例。

(28) 梅の花かばかりにほふ春の夜の闇は風こそうれしかれけれ（後拾遺集・59・藤原顕綱）

（梅の花がこんなに馥郁と、香のみ匂ってくる春の夜の闇には、香りを乗せて吹いてくる風がうれしいことだなあ）

(29) 梅が香におどろかれつつ春の夜の闇こそ人はあくがらしけれ（千載集・22・和泉式部）

（梅の香をあの人の袖の香かと、はっと心騒ぎしたことだ。月夜なら梅と知られるように、春の夜の闇は、人の心をあこがらせるものだなあ）

＊「春の夜の闇」は、心をうわの空にさせるものとして、心の闇と重ねた。

〈参考歌〉人の親の心は闇にあらねども子を思う道に惑ひぬるかな（後撰集・1103・兼輔）

「闇夜に見えぬ花」

(30) 春の夜はいこそ寝られぬ起き居つつまもるにとまる花ならなくに（和泉式部集・春・7）

（春の夜は梅が気になって眠れない。別に起きてじっと見ていたとしても、散らないわけではないのに）

五、「春の夜」と「夢」（主役が「梅」から「夢」へ変遷する）

(31) 寝られぬをしひてわが寝る春の夜の夢を現になすよしもがな（後撰集・76・読人知らず）

（逢えない嘆きに寝られないのに、しいて私が寝る、春の夜のはかない夢を、正夢として現実にかえるすべがあればよいのに）

(32) 春の夜の夢ばかりなる手枕にかひなく立たむ名こそをしけれ（千載集・964・周防内侍）

（春の夜のはかない夢でしかないお戯れの手枕ですのに、うっかりお借りして恋の甲斐のない浮き名が立ってしまうのは残念なことですよ）

(33) 春の夜の夢のうき橋とだえして峰にわかるる横雲の空（新古今集・38・藤原定家）

（春の夜の夢のとぎれた折しも、峰に吹き当てられた横雲が左右に途切れ別れていく曙の空よ）

六、「春の夜」と「月」と「梅」

(34) にほひても分かばぞ分かむ梅の花それとも見えず春の夜の月（千載集・20・大江匡房）

（匂いによって区別するならば区別できるだろう。梅の花は春の夜の月の光ではっきりそれと見わけがつかないけれど）

＊春月の光の中で思わず梅花を見失った。嗅覚と視覚による複合的な美の把握によって、梅をも月をも愛する心を歌った。参考歌(18) 月夜にはそれとも見えず梅の花香を尋ねてぞ知るべかりける(躬恒)

(35) おほぞらは梅のにほひに霞みつつくもりもはてぬ春の夜の月（新古今集・40・藤原定家）
（大空は梅の匂いのために霞んでいて、誠に「曇りもはてぬ春の夜の」朧月で、これに優る眺めはないことだ）
【本歌】照りもせず曇りもはてぬ春の夜のおぼろ月夜にしくものぞなき（新古今集・55・大江千里）
（強く輝くのでもなく、またすっかり陰るのでもない春の夜のおぼろ月に肩を並べる景色はないことだ）
(36) 梅の花あかぬ色香も昔にておなじかたみの春の夜の月（新古今集・47・俊成女）
（梅の花、その飽きることのない色香も昔のままであり、同様に昔の形見として照らしている春の夜の月よ）
【本歌】(15)よそにのみあはれとぞ見し梅の花あかぬ色香は折りてなりけり（古今集・37・素性法師）

七、貫之と躬恒の関係

「暗香浮動」（梅の香りが闇の中を漂うこと）を詠んだ歌

(17) 梅の花にほふ春べはくらぶ山闇にこゆれどしるくぞありける（古今集・39・紀貫之）
(19) 春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる（古今集・41・凡河内躬恒）
どちらの歌が先に詠まれたのでしょう？

「貫之集」に見る歌

凡河内の躬恒が月明き夜来たるによめる

(37) かつ見れどうとくもあるかな月影のいたらぬ里もあらじと思へば(786)

「貫之集」に見る贈答歌

七日のあしたに躬恒がもとより

(38) 君に逢はで一日二日になりぬれば今朝彦星の心地すらしも(812)西本願寺本にて補う

とある返し

(39) あひ見ずて一日も君にならはねば織女よりもわれぞまされる(813)

延喜初年に古今集撰者に選ばれた四人に、古今集撰進の第一次詔が下った
延喜二年（902）頃の貫之、躬恒の年齢及び官職
貫之・・貞観八（866）年生まれと仮定、37歳、御書所預
躬恒・・「勅撰作者部類」「古今和歌集目録」の躬恒伝を検討
延喜二十一(921)年淡路掾に任命
寛平六(894)甲斐権少目に任命。仮に30歳くらいとすると
延喜二年、38歳。
貫之と交流が深かったと思われる。年齢も近寄っていただろう。拙稿「貫之の歌人的出発」

【和歌の出典】万葉集・古今集・・小学館新編日本古典文学全集
後撰集・後拾遺集・千載集・新古今集・・新日本古典文学大系
紀貫之集・・紀貫之全歌集索引

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（5）

講座名	テロ以後のフランス：その闇と光		
講師	原田　操	所属	総合文化学科 教授

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 11 月 29 日（火） 13：00～14：30	2016 年 7 月 14 日のニースの事件に至る、フランスにおける主要なテロ事件及びテロリスム関連法の変遷を跡づけ、さらに 2015 年 1 月に起きた「シャルリ・エブド」社襲撃事件を例として、テロ事件がフランス社会に与えた様々な影響を統一テーマである「光と闇」の両面より考察した。

＜講師報告＞

当講座はテロ事件そのものというよりも、これに関わる幾つかの問題の考察を試みたものである。表現の自由と、テロリスム関連法の変遷を中心に扱った。

2015 年 1 月にパリで起きた「シャルリ・エブド」社襲撃事件は、その残忍さ、諷刺週刊誌への制裁という性格によって社会に衝撃を与えた。この事件はさらにジャーナリスムの自由、表現の自由という根源的なテーマと関わり、世界的にその波紋を拡げることになった。「Je suis Charlie（私はシャルリ）」というスローガンは各国語に訳され、この旗印が犠牲者との連帯を示すデモに翻った。『我々皆シャルリ：表現の自由のための作家グループ』(注) と題した本も出版された 。

フランスのテロリスム関連法は、様々な事件への反応として、徐々に整備されてきたが、近年ペースが一段と速まっている。その内容や成立過程は法制上、倫理上考えるべきいくつかの問題を提起している。

時間の最後に受講者と質疑応答の形で意見交換を行った。テロは地球規模での脅威であるが、受講者の関心は、フランスのテロ事件対策そのものよりもむしろ、事件後のフランス社会の反応を日本社会と比較し、両者の行動様式の違いに向かっていたように思う。このような比較文化的な視点によって、講師にとっても問題の理解を深めることができた。受講者のかたがたに感謝する。

当講座の題目を決めた後、2015 年 11 月のバタクラン劇場の悲劇の記憶も生々しいなか、2016 年 7 月 14 日（フランスでは、「革命記念日」である）にトラック暴走による事件がニースで起きた。不幸にして、講座の内容に新たな項目が加わることとなってしまった。休日であり、革命記念祭に家族とやってきた子供たちの心のケアがとりわけ叫ばれていると聞く。テロの脅威は常に同時進行中であることを思い知らされた限りである。今後も引き続きフランス社会の動向に関心を払っていきたい。

(注) *Nous sommes tous Charlie*, Livre de Poche, 2016.

＜配布資料等＞

使用したパワーポイント画面を印刷した資料を配布した。

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（6）

講座名	生と死の狭間に如何に生きるか ～陶淵明の光と闇～		
講師	三枝 秀子	所属	総合文化学科 准教授

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 12 月 15 日（木） 13:00～14:30	中国六朝時代の陶淵明は、生と死を正面から受け止め、時に苦悩し時に達観しました。生と死の狭間に如何に生きるべきか…。逃れられぬ死を、死の恐怖を、如何に乗り越えたらいいのか…。陶淵明の詩文を通して、彼の「死生観」について一緒に探りましょう。

＜当日受講風景＞

＜講師報告＞

今年度の公開講座のテーマは「光と闇」となった。そこで中国六朝時代の陶淵明の詩文に見える「生の認識」を「光」とし、「死の認識」を「闇」として取り上げることにした。報告者はこれまで本学の公開講座にて何度か講義をしたが、長年の研究対象である陶淵明を扱ったのは始めてであった。

受講者は 32 名（名簿より）であった。報告者の講座に複数回受講されている方がいる。その内の数名は元々陶淵明に興味を持っていて、「陶淵明の講座を楽しみにしていた」という声が聞こえた。また、「陶淵明に興味があったから遙々来た」と本学の講座に始めて参加された方もいた。誠に光栄なことであった。

講座は以下の順にて進めていった。

一、陶淵明はどのような人？

二、「生」をどのように捉えていたか？

三、「死」をどのように捉えていたか？

以下、各項目の概要を記したい。

【概要】

一、陶淵明はどのような人？

① 陶淵明の詩の理解の一助として、陶淵明の略歴を説明した。8 歳にて父が、12 歳で義母（妹の母）が、30 歳頃妻が、37 歳で実母が、41 歳で妹が他界した。家族の死を特に取り上げたのは、陶淵明は常に「死の闇」を抱えていたことを述べるためである。

② 陶淵明の作品の特徴、「酒」と「死の闇」を乗り越えることとの関連性。

二、「生」をどのように捉えていたか？

「雑詩」その一、その二、その五などの作品から、「生」に対し陶淵明はどのように考えていたか探った。

三、「死」をどのように捉えていたか？

① 死後生き返るのか？　② 仙人になれるのか？（不老不死）　③ 財産はどうするのか？　④ 墓はどうするか？

これらは現在においてもよく問題になる事柄である。陶淵明の「雑詩」その三、その四、その六、「連雨独飲」、「自祭文」などの作品からこれらの問題について考えた。

「生と死の狭間に如何に生きるか」、これは人間にとって永遠のテーマで、何時の世も人はこの問題に苦しんでいる。「人生実に難し、死之れを如何せん」と陶淵明も「如何に生きるか」悩んでいた。私達と同じである。陶淵明は言う、いずれは「丘壟に帰る（墓に入る）」だけであると。それならば陶淵明のように「觴（さかずき）と絃とを朝日に肆（なら）べ（酒杯と楽器を朝からならべて）」日々楽しむのもよいのではないだろうか。

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（7）

講座名	シェイクスピアのファースト・フォリオ版全集の魅力		
講師	安田 比呂志	所属	総合文化学科 教授

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 9 月 20 日（火） 13：00～14：30	2016 年の 5 月 25 日、ロンドンのオークションでシェイクスピアのファースト・フォリオ版全集が落札されました。本講座では、他の全集との比較も交えながら、ファースト・フォリオ版全集の特徴と魅力について講義します。

＜講師報告＞

ロンドンのクリスティーズにおける 5 月 25 日のファースト・フォリオ版全集の落札は、シェイクスピア没後 400 年にあたる 2016 年のビッグ・ニュースのひとつであった。今回の講義では、このファースト・フォリオ版全集に焦点を当て、その魅力の一端を紹介することを目的とした。

講義では、最初に、「2016 年のビッグ・ニュース」として、上記クリスティーズで落札されたファースト・フォリオ版全集に関する具体的な情報を提供した後、21 世紀に報道されたファースト・フォリオ版全集に関する様々なニュースを紹介し、時には 7 億円をも超えるファースト・フォリオ版全集の稀覯本としての価値や、それゆえの盗難事件、あるいは図書館におけるその維持の困難さなどについて述べた。

次に、ファースト・フォリオ版全集の所有者の多くが亡くなっている事実を「ファースト・フォリオ版全集の呪い？」として紹介した後、ボードレアン図書館や明星大学、ロイヤル・シェイクスピア劇団が関わるそれぞれの逸話を紹介した。

このように、ファースト・フォリオ版の「稀覯本」としての価値や、それにまつわる様々な「逸話」の魅力について触れた後で、ファースト・フォリオ版全集の「テキスト」としての特徴や魅力について講義した。ここでは、ファースト・フォリオ版全集の正式名や本のサイズ、編者、販売当時の価格、4 種類のフォリオ版の特徴、収録作品など、フォースト・フォリオ版全集に関する基本情報の紹介を行った後で、ト書きを含めた本文（内容）の特徴のいくつかを、クウォート版との比較も交えながら明らかにした。

また、「出版物」としての特徴を明らかにするために、5 名のコンポジター（植字工）のそれぞれの特徴や、当時の製本方法から生じる植字上の困難さ、「ストップ・プレス・コレクション」と呼ばれる印刷作業を進めながらの修正方法、『トロイラスとクレシダ』に典型的な版権取得と印刷のタイミングの問題、マーティン・ドルーシャフトによる有名なシェイクスピアの肖像画の問題、購入者による装丁の変更、19 世紀の複製職人ジョン・ハリスによる「ハリス・ファクシミリ」などについて紹介し、このような事情から、ファースト・フォリオ版には 1 冊として同じものが存在しないことを確認した。

そして、最後に、現存する版本に残る眼鏡やハサミの跡などから、この書物を実際に読んでいたのがどのような人たちであったのかを推測する楽しみもあるということを示し、講義を終えた。

今回の講義では、受講数は少なかったものの、どなたもシェイクスピアへの造詣が深く、ロンドンのグローブ座で購入した『ハムレット』のファースト・フォリオ版のリプリント版を持参された方もおられた。また、英語も堪能であったため、ファースト・フォリオ版全集の出版がなければ後世に伝わることのなかった『マクベス』の名台詞などを、ファースト・フォリオ版の綴りで読むことができた。受講

者の方々には、配布プリントを輪読していただくなど、積極的に参加をしていたくことができた。そのおかげで、とても充実した楽しい時間を持つことができたのではないかと考えている。

最後に、今回の講義を通して、シェイクスピアのファースト・フォリオ版全集にとどまらず、「本」そのものが持つ多様な特徴や魅力を改めて実感していただけたら、講師としてこれほど嬉しいことはない。

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（8）

講座名	オーストラリアを知ろう！		
講師	Bruce Flanagan	所属	総合文化学科 専任講師

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 9 月 26 日（月） 14：40～16：10	本講座では、現代のオーストラリア事情について、写真や映像を交えながら日本語で紹介します。歴史、自然、産業、観光、文化、言語など、魅力ある様々な分野に触れてみましょう。オーストラリアの国民性が分かる知識や文化的な背景を、興味深いクイズなどを取り入れて丁寧に解説していきます。

＜当日受講風景＞

＜講師報告＞

16 人の参加者が熱心に受講していただき、中にはオーストラリアに行かれた方やお子様が暮らしていらっしゃる方もおられました。パワーポイントで写真と映像を利用したプレゼンを行いました。その他、オーストラリア関連の書籍や資料を展覧して紹介いたしました。残念ながら、通常の授業が次の時限に入っていたため、質疑応答の時間が短くなりましが、次回はもっと時間を設けたいと思います。様々なご質問やご意見を寄せられ、刺激をたくさんいただきました。日豪関係に少しでも貢献できればと思っておりますので、オーストラリアへの関心を持っていただければ幸いです。たくさんのご参加をありがとうございました。感謝を申し上げます。

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（9）

講座名	車椅子特殊操作とスポーツ体験 ―傷害を持つ人との共生目指す ―		
講師	小山 貴	所属	名誉教授

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016年9月28日（水） 13：00～14：30	片脚欠損の人が当日病気にて欠席したのは残念であったが、当初の計画通り実施。

＜当日受講風景＞

外自力走行体験

瞬間的に前輪を上げて

車椅子エアロビック・ダンス 段差乗り越えの練習

＜講師報告＞

［本講座を企画した理由］
身障者との共生の必要性は理解できても実践方法を思い当たらない人に、車椅子操作の体験を通じて介護に役立てたり、さらに幅広い福祉活動に関心を持つきっかけとなってほしいと期待した。
◆以前在職中は体育関係授業の中で、救急救命処置法・患者搬送法・心肺蘇生法・車椅子介護法・障害者スポーツ体験等も扱い、「大学の体育は高校体育の単なる延長ではない」ことを学生に認識させていた。
［実技指導］
●身体運動をする講座では事故防止が最重要である。本学が短大当時、十数年間にわたってＢＯＸＩＮＧ講座をしてきた。参加者の多くは「スポーツ・ジムの運動では物足りない」という体力を備えているが、中年男性にはとくに注意を払い、血圧・動脈血酸素飽和度、心電図等で確認し、納得させてから運動を中止させた。
●片脚欠損の男性を奥様が連れて来るというので、当人および奥様から日頃の介護状況、車椅子介助などについて具体的に話していただく予定であったが、欠席されたのは残念であった。
１．階段昇降介護法・・・最近の戸建住宅では、玄関から道路までに数段の階段があることが多い。
家族が車椅子を使用するようになったときは、一人でも昇降補助は可能だが、大学の車椅子はブレーキがないため行わず、「上りは、階段を背に前輪を浮かして引き上げる。下りは前輪を上げて上から支えながら降りる」ことの説明にとどめた。
２．段差乗り越え法
街中を自力走行するとき、技術を知らないと３～４㎝の歩道の境目でも乗り越えられない。
瞬間的に上体を後ろにそらすと同時に車輪リムを前に押して前輪を上げて乗り越える。普段の運動習慣の有無によって技能習得までに大きな差が見られた。
３．屋外自力走行
病院等の床は摩擦が少ないため容易に移動できるが、屋外では看護師でも大変苦労することがある。
普段は気付かないが、路面は左右に傾斜している。僅かな傾斜でも車椅子は端に向かってしまい、直進できない。進行方向を補正する技術を体験してもらった。
４．体育館にて直進・急な方向転換・急停止の練習
５．車椅子でのエアロビッ・ダンス：エアロビックダンスは［大きな筋肉群を動かして消費エネルギーをかせぐ］ことが目的である。１曲数分の音楽に合わせて３曲体験してもらった。下肢は動かせなくとも、上肢や体幹は前後左右に大きく動かすことができるため、受講者全員が音楽に合わせて次第に楽しそうな表情になっていく様子が印象的であった。
６．車椅子バスケットボール体験
３～４ｍの距離でのパスも相手に届きにくく、シュートはまったく届かないことを体験。受講者皆がパラリンピック選手の技能にあらためて感心していた。
７．講座後、受講者の感想
・短時間の体験だったが、もう既に肩が疲れて腕が上がらない。これほど大変とは思わなかった。
・今まで街中を車椅子で走行する人を見かけても、「お気の毒・・」程度にしか思わなかったが、今回

実際に体験してみて（とくに屋外での）車椅子操作がいかに困難かを知った。今後は街頭で車椅子を見かけたときは注意深く観察し、できれば介助してあげたいと思う。
・車椅子に限らず障害を持つ人との交流の機会があれば参加したい。

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（10）

講座名	小中学校音楽教員のための効果的な吹奏楽指導法 ～初等教育教育法（音楽）におけるアクティブラーニング型授業と講義反復練習型授業の教育方法を通して～		
講師	石田 修一	所属	総合経営学科 教授

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 10 月 15 日（土） 9:00～12:00	倍音を聴き取る力を無理なく伸ばす方法、児童生徒一人一人の奏法向上のための効果的な指導法、システム化された合奏指導法、指揮法及びアクティブラーニングによる音楽授業と講義反復練習型授業の学習効果の違いについて実践を通して学びます。

＜講師報告＞

受講者のアンケート結果から、今までは時間が無いという理由で「成果を追い求める」ことに一生懸命になっている教師が多かったようであるが、今回の講座で自分が行っている練習の非効率的な部分を見つけ、それをどのように改善していけばよいかということが理解できたようである。第一に、子どもたちに興味関心を持たせることが重要であり、そのためには「今まで聴き取るこのできなかった倍音」を簡単に聴き取ることができる方法を実践を通して学んでもらった。今まで聴き取ることができなかった「音」が簡単に聴き取ることができ、受講者は驚いていた。

第二に、子どもたち一人一人の演奏能力向上のために不可欠である「アンブッシャーチェック」を毎回行うことを学んでもらった。これも毎回の練習の中でおろそかにされがちであるが、「食事の後に歯を磨く」という習慣と同じようにシステム化すれば一人５秒、１分間で１２人程度の指導を行うことができる。ピッコロ、フルートから順番にチューバまで５０人の指導が６～７分程度で行うことができ、その指導方法を実際に体験してもらった。

第三に、基礎練習から合奏練習までをシステム化することが重要であるということを学んでもらった。

顔の筋肉ストレッチ「大きな声、変顔で笑う」練習に始まり、楽器に空気を入れる。これも、ただ、なんとなくやるのではなく、４拍かけて息を吸う、１拍で思い切りその息を吐く。この時、マースピースは、はずし、管体を直接、口にくわえて行うことが重要である。次にマースピースを装着して実際に音を出す。この音はチューニングの音の１オクターブ下の音で静かに奏する。スラーで音階を演奏、徐々にチューニングの音へ近づけていき、チューニングの音までいったらハーモニーディレクターでチューニングを行う。チューニングが終了したら、その日に練習する楽曲の調の音階練習を行う。音階練習の次に「コラール練習」を行う。このコラールは毎年同じものを使用し、録音をとっておく。その録音したコラールを次の年の後輩たちが聴くことによって、より短時間で卒業した先輩たちの演奏に到達することができる。コラールは合唱やマースピースだけでも練習行う。また、ハンドサインによる和音唱もこの時に行う。次にいよいよ楽曲練習に入る。最初に楽譜に小説番号を記入、次にその楽曲のすべての音数を数える。その音数をもとに練習計画表を作成する。楽曲を構成しているすべての音を四分音符６０のテンポでロングトーン個人練習する。次に楽曲の同一音グループでいっしょにロングトーン練習。その後、同一フレーズでのパーツ練習を行いアーティキレーションと表現（イントネーション）を統一する。楽曲についてのストーリーをパートごとで話し合い発表。パートごとに発表されたものを全体で考えて楽曲全体のストーリーを決定する。そのストーリーにあわせて音楽表現を話し合い、全体の音楽

表現を統一する。楽曲全体のクライマックス、テンポを確認。子どもたちから離れた場所で演奏を聴いてバランスチェックを行う。バランスが良いというのはブレンドした箇所と一つの楽器が鮮やかに聴こえる箇所が調和していることである。本番演奏時の楽器配置の確認。本番のとおりステージへの入退場練習を行う。演奏披露。

以上のことを開智国際大学吹奏楽部をモデルバンドにして実技講習を含めて講座を実施した。

＜配布資料等＞

アンブシャーチェック表（木管用楽譜、金管用図）、基礎練習用楽譜、基礎練習のためのレシピ、楽曲練習のためのレシピ、楽曲（楽曲の一部分）、コラール楽譜（一部分）

2016 年度
開智国際大学公開講座報告（11）

講座名	若さと健康をサポートします！ ―ミニテニス―		
講師	高橋　早苗	所属	総合経営学科　准教授

＜実施概要＞

日時	講座内容
2016 年 10 月 25 日(火) 10：40～12：10	＜初心者＞第１回：「ミニテニスの概要説明・ミニテニス体験」 1. ＤＶＤ及びミニテニス導入の手引を使用して概要説明 2. ラケットの握り方や基本動作を説明した後、基本ドライブ練習 ＜継続者＞第１回：「基本動作６種目の確認・修正」 ・フォアドライブ　・フォアカット　・フォアスライス ・バックドライブ　・バックカット　・バックスライス
2016 年 11 月 1 日(火) 10：40～12：10	＜初心者＞第２回：「ラケット・ボールに慣れる」 1. 前回の復習「基本ドライブ練習」 2. ミニコートにて「試合形式練習」 ＜継続者＞第２回：「基本サービス動作の確認・修正」 ・フォアサイドサービス　・バックサイドサービス

2016 年 11 月 8 日(火) 10：40～12：10	＜初心者＞第３回：「ボールに回転を与える」 1. 前回の復習「基本ドライブ・ミニラリー」 2. サービス練習「遠くへボールを飛ばす・回転を掛ける」 ＜継続者＞第３回：「ネット際のプレー」 ・ショートクロス　・スリアゲ　・ネットプレイ
2016 年 11 月 15 日(火) 10：40～12：10	＜初心者＞第４回：「スライスを覚える」 1. 前回の復習「球出し・サービスの仕方」 2. スライス練習「スライスのフォーム」 ＜継続者＞第４回：「ミスを減らすボールコントロール」 ・無回転ボールの処理　・ストレート、クロスへの打ち分け
2016 年 11 月 22 日(火) 10：40～12：10	＜初心者＞第５回：「カットを覚える」 1. 前回の復習「スライス練習」 2. カット練習「カットのフォーム」 ＜継続者＞第５回：「ディフェンス力強化、変化球への対応」 ・カットボールの処理　・スライスボールの処理
2016 年 11 月 29 日(火) 10：40～12：10	＜初心者＞第６回：「試合のルールを覚える」 1. 前回の復習「カット練習」 2. サービス練習「サービスの精度を上げる」 3. ゲーム練習「審判を体験する」 ＜継続者＞第６回「新ルールＳＲ戦、対角線ラリーの理解と実践」 ・新ルールを適用しての実践練習

＜当日受講風景＞

＜講師報告＞

ミニテニス公開講座は、今回で 9 回目となる。継続者は毎年受講している為、技術レベルが向上し初心者と継続者が同一メニューで行うことは難しい。昨年は初心者と継続者の日程を分けて行ったが、今年度においては継続者から初心者への指導協力を得られた為、同日開催とした。

１.継続者クラス

「効果的な基礎練習の仕方」、「試合に役立つポイント練習法」

① 技術レベルが向上し、地方の交流大会へ参加するペアも増えた。交流大会では必ず審判を行う為、技術練習の他に審判講習も取り入れている。

② 市内のみならず、松戸市や三郷市等他市から参加される方が増えた。

２.初心者クラス

「ミニテニス体験」、「ラケット・ボールに慣れる」

① 初心者クラスは、まずはどのような競技であるか知る、そして体験することを目的としている為、全２回と回数を少なく設定している。また、体験してみて「楽しい」、「継続したい」という希望者には既存のクラブを紹介した。

② 今回の参加者は過去に運動習慣が殆どない方ばかりの為、上達度はゆるやかである。しかし、３名ともに継続を希望しており、来年度の公開講座の参加も見込まれる。

③ また、継続者からの紹介でわずかであるが年々受講者数は増加傾向にある。

３.改善点

平日の午前中開催ということもあり、比較的時間に余裕のある中高年者が受講している。

来年度は傷病者を出さない為に、当日の血圧および体調チェックを毎回行う。

＜配布資料等＞

ミニテニスハンドブック「ミニテニス導入の手引」

日本ミニテニス協会

2016.秋 開講

後援/柏市教育委員会

開智国際大学

Kaichi International University

公開講座のご案内

コインに裏表があるように、物事すべからく表裏一体というのが世の常でしょうか。

情報化が進み、豊かな、自由なグローバル社会という光が燦々と注ぐ裏側に、卑劣なテロを育むゆがんだ社会や、ストレスが心の闇に添い寝するような、そんな闇が存在します。

今年のテーマは「光と闇」。

右の絵は、ルーブル美術館所蔵の、光と影を駆使したドラクロワによる“フランス７月革命”を描いた作品ですが、まさに圧政の闇にあえぐ民衆を照らす、「自由」の光輝く姿を表した名作です。

<ドラクロワ 作 / 民衆を導く自由の女神>

さぁ、「光と闇」を切り口に、講座がスタートします。

<今年のテーマ>

光と闇

公開講座お申し込みについて

- メール、ハガキ、FAXのいずれかに、1.氏名 2.住所 3.連絡先電話番号 4.希望講座名 をご記入の上、お申し込みください。
- 開講が決定次第、ご案内をお送りします。受講申し込み者が極端に少ない場合は、開講を見送る場合がございますが、その際にもご連絡いたします。（開講日の10日前が目安です。）
- 過去3年以内で継続受講される方は、受講料の半額が免除。また、受講者は無料で図書館利用証を作れます。
- お車での通学は、ご遠慮いただきます。

≪お申し込み先≫ 開智国際大学 公開講座係
〒277-0005 千葉県柏市柏1225-6 TEL/04-7167-8655 FAX/04-7163-0096 MAIL/soumu@kaichi.ac.jp

2016 年度 開智国際大学「公開講座」報告

2017 年 2 月 28 日発行

編集　開智国際大学
研究・図書・紀要委員会
地域貢献センター

発行　開智国際大学
〒277-0005 柏市柏 1225-6
Tel　04-7167-8655
Fax　04-7163-0096

KAICHI INTERNATIONAL UNIVERSITY